

■しずだい産学連携メールマガジンVol. 114

2017年6月20日発行 【毎月第3火曜日】

⇒静大イノベーション社会連携推進機構より、お知らせやイベント情報をお届けします。<http://www.oisc.shizuoka.ac.jp/>からもご覧頂けます。

★今月の「みんなのコラム」は、工学部機械工学科 島村佳伸先生です。

◆◆ CONTENTS ◆◆

1. 「BIO tech 2017 アカデミック フォーラム」に出展します
2. 『グリーンサイエンスカフェ』のお知らせ
3. グリーン科学技術研究所がニュースレターを発行しました。
4. 市民講座「〈ヒト〉を科学する」が始まります。
5. ホームページが新しくなりました！！

-
1. 「BIO tech 2017 アカデミック フォーラム」に出展します
<http://www.bio-t.jp/>

アカデミックフォーラムに静大教員3名が出展します。
アカデミック フォーラム（創薬・医療・バイオ 研究発表大会）は、大学・国公立研究所の研究者が、口頭発表やポスター展示を通して、バイオ研究の成果発表を行う場です。

来場者と発表者の間で、共同研究・技術移転・ライセンスに関する打ち合わせが多数行われるなど、大学－企業間を中心とした実質的な産学連携・パートナーリング案件が多数生まれています。
ぜひご来場ください。

【日 時】2017年6月28日（水）～ 6月30日（金）
【場 所】東京ビッグサイト

【静岡大学の出展・発表内容】

大学院 総合科学技術研究科 農学専攻 准教授 与語 圭一郎
発表タイトル：雄の生殖能に重要なSLCトランスポーターの同定
・会場：ACA-3（創薬ツールコース）
・日時：6月28日（水）11：50～12：20
<http://d.bio-t.jp/ja/Expo/2725362/>----

大学院 総合科学技術研究科 工学専攻 准教授 鳴海 哲夫
発表タイトル：キノリニウム型光感受性保護基の創製とケージド神経伝達物質への応用
・会場：ACA-2（医薬・診断薬シーズコース）
・日時：6月29日（木）10：30～11：00
<http://d.bio-t.jp/ja/Expo/2725363/>-----

しずだい産学連携メールマガジンVol114
大学院 総合科学技術研究科 情報学専攻 准教授 荒木 由布子
発表タイトル: MRIデータに基づくアルツハイマー病早期発見のための統計的
モデリング
・会場: ACA-1 (研究シーズ/研究ツールコース)
・日時: 6月29日 (木) 13:10~13:40
<http://d.bio-t.jp/ja/Expo/2725364/>-----

【詳細】 <http://www.bio-t.jp/Academia/About/>
【問合せ先】 静岡大学イノベーション社会連携推進機構
TEL: 053-478-1702
FAX: 053-478-1711
<http://www.oisc.shizuoka.ac.jp/>

2. 第8回グリーンサイエンスカフェご案内

平成25年4月に発足した「グリーン科学技術研究所」の教員が、
研究者の夢や失敗談、ときには笑いを交えて個々の研究を紹介します。
コーヒーを片手に、科学の話題に耳を傾けてみませんか？

第8回は、7月8日 (土) 開催です。

【開催日】 2017年7月8日 (土) 14:00~15:30
【講師】 富田因則 教授 (グリーンバイオ研究部門)
「スーパーコシヒカリを開発するための次世代DNAシーケンサーによる遺伝子探索とゲノム編集」

(概要)
わが国の米の主要品種コシヒカリは、地球温暖化に伴う台風の激化やゲリラ豪雨によって倒伏害、減収や品質劣化を被るばかりか、市場のグローバル化により米国産、豪州産コシヒカリとの価格競争が危惧されています。そこで、気候変動に強く、かつ国際競争力を持つスーパーコシヒカリを開発するため、次世代DNAシーケンス解析によって、高温登熟を避け、低コスト多収化させる遺伝子を探索し、さらに、それら有用遺伝子のコシヒカリへの移入を進めています。ゲノム編集技術という遺伝子をピンポイントに変化させて、品種改良を加速化する技術についても触れる予定です。

【会場】 B-nest 静岡市産学交流センター ペガサート6階 プレゼンテーションルーム
【受講料】 無料
【定員】 100人 (先着順) ※事前申込不要
【問合せ】 メールにてお問合せください。 [kenkyu2\[at\]adb.shizuoka.ac.jp](mailto:kenkyu2@adb.shizuoka.ac.jp)
(↑送付の際は[at]を@に変更してください。)

【詳細】 <http://www.green.shizuoka.ac.jp/topic00044.html>

※今後の開催予定

【第9回】 2017年9月9日 (土)
「海を測ってわかること~駿河湾海洋生態系研究プロジェクト~」
(講師) 宗林 留美 准教授

3. グリーン科学技術研究所ニュースレターのお知らせ

グリーン科学技術研究所の研究紹介や各種イベント情報を掲載したニュースレターを発行しました。

****トピック****

- ①特集：グリーン社会における安心・安全一人とウイルスの果てしない闘いー
ニュースレター第一号の特集は、朴所長の研究紹介です。感染症との闘いの歴史を振り返りつつ、カイコを用いたタンパク質の発現が、どのように安心安全な社会の実現に寄与するのかを、紹介します。
- ②グリーンサイエンスカフェ開催報告
2016年度から始まったグリーンサイエンスカフェ。静岡、浜松での開催の様子を、近藤教授にご紹介いただきます。
- ③イベント情報（活動報告）
 - ・ガジヤマダ大学との部局間協定
 - ・グリーン科学技術研究所シンポジウム
 - ・慶北大学訪問団来訪
 - ・ブラウンシュバイク工科大学訪問
 - ・International Symposium Toward the Future of Advanced Researches in Shizuoka University (3部局共催シンポジウム)

PDF版をグリーン科学技術研究所ホームページからご覧いただけます。

URL:<http://www.green.shizuoka.ac.jp/topic00047.html>

4. 静岡大学・読売新聞連続市民講座2017「〈ヒト〉を科学する」5回シリーズのお知らせ

ヒトを人間たらしめる知性、知能はいかにして形成されるのか。機械は人間のように言語を操り、学ぶことは可能か。社会はなぜストレスをもたらすのか。ヒトはどのような生活を送れば健康になれるのか。2017年度の連続市民講座は、ヒトを5つの視点から科学します。

日程： 7/1（土）、8/5（土）、9/2（土）、9/30（土）、10/21（土）

時間： 14：00～16：00

会場： 静岡県男女共同参画センター・あざれあ 6F大ホール

参加費： 無料

定員： 250名

詳細： <http://www.lc.shizuoka.ac.jp/event002802.html>

《 第1回 》 7月1日（土）

演題：「人間の知性を探究し、デザインする」

講師：大島 純（静岡大学情報部・教授）

概要：人工知能と人間は、本来は異なる知性を基に協力し合えるものです。そのために、私たちは本来の知性を改めて認識し、発展させる学習環境を設計せねばなりません。

こうした人間の本来の知性を発展させる新しい学習環境のあるべき姿についてみなさんと考えていきます。

お申込み：氏名（ふりがな）、住所、年齢、電話番号、参加する回を明記して
FAX・メール・葉書のいずれかによりお申し込みください。

[FAX] 054-252-0310

[メール] shizuoka[at]yomiuri.com

（↑送付の際は[at]を@に変更してください。）

[葉書] 〒420-0853 静岡市葵区追手町9-22 読売ビル3F
読売新聞静岡支局 静大市民講座係お問い合わせ

お問合せ：地域連携生涯学習部門

054-238-4817[平日9:30~16:00]

LLC[at]ipc.shizuoka.ac.jp

（↑送付の際は[at]を@に変更してください。）

5. イノベーション社会連携推進機構のホームページがリニューアル！

6月1日より新しくなりました。

主催イベントや関連情報などを中心に随時新しい情報を掲載していく予定です。
ぜひお役立てください。

<http://www.oisc.shizuoka.ac.jp/>

《 みんなのコラム -108- 》

記：工学部機械工学科 教授 島村佳伸

静岡大学へ赴任してきてからの約10年間、機械材料の強度と破壊に関する研究（主に金属疲労）と、先進複合材料の開発とその力学的特性の評価に関する研究を行なっています。前者の材料強度という研究分野は、機械構造の安全設計ときわめて関わりの深い分野です。そのため、材料強度を専門とする大学教員の間では、大学における教育研究だけでなく、高度技術社会の安全性の向上に積極的に貢献することもその役割の一部という考え方が（特に国立大学に属する教員の間では）広く共有されています。そのため、材料強度研究者にとっての「産学連携」とは、いわゆる共同研究を行うことにとどまらず、学問の成果を社会に還元する仕事（製品の不具合等に関する技術相談、社会人向け講習の実施、既存の機械構造の安全性評価、安全設計に関する規格の制定など）にたずさわることでも意味しており、私自身も微力ではありますがお声がけがあれば可能な限りそのような仕事も引き受けるようにしております。大学の使命の一つは、「知の拠点」として社会を支えていくことです。昨今の国立大学を取り巻く厳しい状況の下、そのような社会的活動に割く時間的、金銭的、精神的余裕が無くなってきていることは事実であり、またそれらの社会的活動を文部科学省や大学が評価してくれることはほとんどないため、いまでは教員個人の責任感だけでそれらの活動に取り組んでいるというのが実際のところかと思えます。にもかかわらず、それらの広義の「産学連携」活動に取り組むのは、それらの活動が社会的存在としての企業活動の一助になればとの思いからです。ついては、ぜひこのような大学人の社会的活動の重要性にも一層のご理解をいただき、それらの活動を支えるための皆様からの今まで以上のご支援を切にお願いする次第です。

* — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * —

しずだい産学連携メールマガジンVol114

◆メールマガジンに関するお問合せ・配信先変更・担当者変更・
配信中止のご連絡は、sangakukoho5[at]cjr.shizuoka.ac.jp まで
お願いします。（↑送付の際は[at]を@に変更してください。）

◆本メールマガジンの商業用の転載はお断りいたします。

発 | 行 | 者 |

国立大学法人静岡大学イノベーション社会連携推進機構

編集：宮下真紀子
発行責任者：木村雅和

〒432-8561 静岡県浜松市中区城北3-5-1
TEL 053-478-1703
URL <http://www.oisc.shizuoka.ac.jp/>

* — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * —
Copyright (c) 2008-2017
Organization for Innovation and Social Collaboration,
Shizuoka University. All rights reserved